



公明党 嶋田弘二 9
障がい者への福祉用具

問技術の進展に伴い、さまざまな福祉用具が開発・販売されているが、日常生活用具の品目に追加し、支給することについて市の考えを伺う。

答福祉部長 障害のある人の自立を支援する機器は、さまざまなものが開発されており、日常生活用具の品目の見直しもそれに合わせたものとする必要があると考えている。

一方、要件に該当しない用具の例もあるので、新たに開発された用具を追加することは、慎重に判断する必要がある。

今後、新たな技術による福祉用具が、障害のある人の日常生活をより良いものにするということも踏まえ、効果的な日常生活用具費支給事業の実施に努めていく。

障がい者への福祉用具



公明党 中村文明 10
歩行空間の確保を

問今後、グリーンベルト等の積極的な設置に向けて検討してもよいのではないかと思うが、歩行空間の確保に向けた市の考えは。

答市民部長 見通しの良い道路や幹線道路の抜け道となっている道路など、車の速度が上がりやすい箇所においては、特に道路上に白線を引き路側帯を設け、歩行空間を確保

する必要性が高いと認識している。

さらに、通学路においては、路側帯をグリーン色でカラー化するグリーンベルト等を設置するなどして、より児童生徒の安全を守る対策を今後も継続して実施していきたいと考えている。

通学路の安全対策
消費者教育



公明党 田畑たき子 11
ALS重度難病家庭支援

問介護者の休息等のための支援、いわゆるレスパイトケアを含め、24時間の介護が必要となる人への今後の対策を伺う。

答福祉部長 ALSで常時人工呼吸器を使用しているなど24時間の介護が必要な人の介護に掛かる負担は精神的・身体的にも非常に大きなものである。介護者の負担を軽減し、介護者が休息を取り

やすくするためにも、家族が介護するのは当たり前という考え方をせず、個々の事情に合わせたサービスを必要な量をもって提供することが必要である。そして、それらのサービスを提供することのできる体制の整備を川越市障害者支援計画に基づき行っていくことが重要であると考えている。

ALS重度難病支援



公明党 大泉一夫 12
100周年で市民の歌活用

問昭和32年に誕生した市民の歌「われらの川越」を市制100周年事業の一つとして、あらためて市民意識高揚に活用すべきと考えるが市の考えは。

答市長 この市民の歌は、これまで川越の発展の礎となった歌であり、郷土に対する愛着や誇り、将来への希望などの思いが込められて、これまで受け継いできたものである。

一方では、時代の変遷とともに歌詞の内容が現在に合わないといった部分もあるが、来年は市制施行100周年であるため、川越市の歴史の一環として、市民の歌について市民に知ってもらい、聴いてもらえるような機会を検討していきたいと考えている。

建設残土の取扱の現状
市民の歌の活用



政晴会 倉嶋真史 13
防犯のまちづくりについて

問今後予想される課題へ取り組みに当たり、新たな体制が必要と思われるが、どのように考えるか。

答市民部長 今後の課題として、自主防犯活動団体の担い手の減少や繁華街での悪質行為への対応などが挙げられる。自主防犯活動について

と地域組織の連携により、活動の促進が図られるものと考えている。また、繁華街などでの防犯活動については、地域と警察によるこれまで以上の連携が必要と考えている。

このように新たな世代や団体と地域をつなげ、コミュニティ力の向上や地域課題への取り組みにつながるよう努める。

防犯のまちづくり



自由民主党 栗原瑞治 14
今後のワクチン接種の課題

問11月中には希望者全員の2回接種が完了する見通しだが、3回目のワクチン接種実施に備え、今後の課題等の整理をしておくべきでは。

答保健医療部長 これまでのワクチン接種では、接種券の送付時期や高齢者へのインターネット予約対応、コールセンターなどがつながらないなどの課題があった。

3回目の接種を見据えた課題は、2回接種した人への案内や予約方法など、さまざまな面である。また、接種回数に応じた対応も必要になる。

いずれにしても、国からの情報を注視し、これまでの課題ならびに新たな課題の解決に向けた検討を早期に行っていく。

今後のワクチン接種